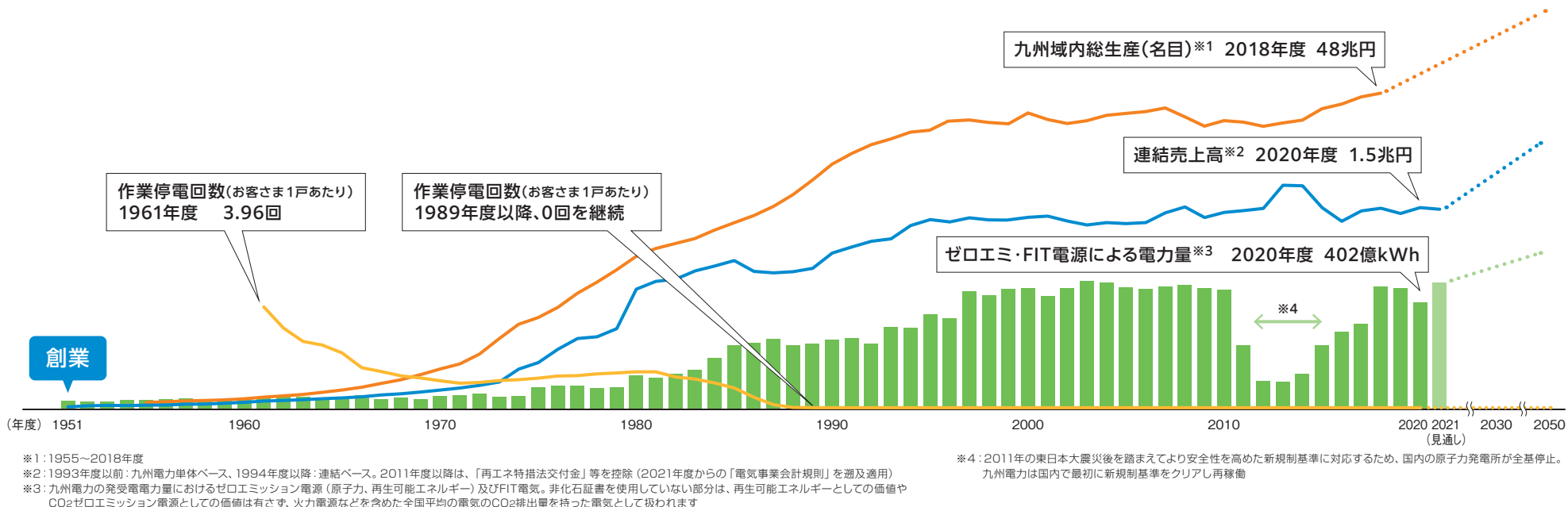


# 九電グループのあゆみ

九電グループは、低廉で良質なエネルギーを安定してお届けすることを通じ、お客さまの生活や経済活動を支え、九州とともに成長してきました。それは、これまでずっと、そしてこれからも変わることがない私たちの使命です。その上で、時代とともに変わるお客さまと地域社会のニーズにお応えし、環境にやさしいエネルギーの開発等、地球規模の社会的課題解決に取り組んでいます。



## 九州地域の成長に貢献し、ともに発展してきた九電グループ

### Focus1

#### たゆまぬ挑戦の積み重ねによる 電力安定供給の実現

大きく変動するエネルギー情勢やその時々社会的課題に対し、中長期の観点から最適なエネルギーミックスを考え、その実現に向けて挑戦を続けてきました。経営環境が大きく変わる中でも、安定供給に対する変わらぬ使命感のもと、新たな技術の開発などに積極的に取り組むことで、将来にわたってお客さまの生活や経済活動を支え続けていきます。

### Focus2

#### 多様化する社会や お客さまニーズへの対応

時代とともに多様化・高度化するお客さまや社会のニーズに的確に対応し、より豊かで快適な生活や経済活動につながるよう、情報通信やインフラサービス、ガス販売など新たな事業領域に挑戦してきました。また、国内電気事業で培った技術・ノウハウをもとに、海外事業に積極的に取り組んできました。

### Focus3

#### 低・脱炭素のトップランナーとして 九州から日本の脱炭素をリード

長年にわたり再エネの開発導入に積極的に取り組んできたことに加え、震災以降停止していた原子力を他社に先駆けて稼働したこと等により、国内の低・脱炭素のトップランナーとなりました。今後も、カーボンニュートラル実現に向けて、電源の低・脱炭素化と電化の推進に取り組む、九州から日本の脱炭素をリードする企業グループを目指します。

## 電源開発の進化と事業領域の多角化

	1950s~1960s 創業～高度経済成長期	1970s~1980s 石油危機～バブル崩壊	1990s~2000s 電力規制緩和の段階的進展	2010s~ 東日本大震災～ 現在・これから
	<p><b>需給安定への挑戦</b></p> <p>1951年、戦後の混乱から高度成長へと大きな一歩を踏み出す中、創業。日本初のアーチ式ダムの採用や大容量新鋭火力発電などの電源開発に取り組み、九州の電力需給は全国に先駆けて安定しました。1960年代後半には、環境面も重視し、石炭火力から重油火力への転換を図るとともに、原子力の準国産エネルギーとしての優位性に着目し、電源の多様化を進めました。</p>	<p><b>激動するエネルギー情勢への挑戦</b></p> <p>第一次石油危機以降、脱石油と収支安定に向けて、電源多様化を積極的に推進。1975年に玄海原子力1号機の運転を開始しました。1980年代には、高度化・多様化する社会のニーズに対応するため、サービスの充実を図るとともに、電気通信事業などの新たな事業領域へ挑戦しました。また、温暖化防止に向け、風力発電実証実験等、新エネの開発・導入にも積極的に取り組みました。</p>	<p><b>電力小売自由化への対応</b></p> <p>1990年代、日本では電気料金の内外価格差解消に向けた電気事業法の段階的改正が施行。2000年以降、自由化が拡大していく中、新料金メニューやオール電化推進で営業力を強化。お客さまから選ばれ続ける企業となるためにどうあるべきかを考え、「ずっと先まで、明るくしたい。」という思いのもと、将来にわたるエネルギーの安定供給と持続可能な社会への貢献を誓いました。</p>	<p><b>九州から日本の脱炭素をリード</b></p> <p>2011年の東日本大震災により、国内の原子力が全基停止。2015年9月、川内原子力1号機は厳しい規制基準をクリアし、国内で最初に通常運転に復帰しました。原子力の安全・安定運転に加え、再エネの積極的な開発・導入等により、業界トップクラスのゼロエミ・FIT電源比率を実現しています。カーボンニュートラルの実現に向け、グループ一丸となって取り組んでいきます。</p>
<p><b>Focus1</b></p> <p>たゆまぬ挑戦の積み重ねによる電力安定供給の実現</p>	<p>1956~59 大容量新鋭火力の刈田発電所1~3号機(出力計38万7,000kW)運転開始</p>	<p>1977 脱石油推進のため、新小倉発電所1・2号機をLNG専焼に改造</p> <p>1980 50万Vの中央・西九州変電所新設、佐賀幹線50万Vに昇圧</p> <p>1986 日本初の配電線自動制御システム本格導入(福岡営業所)</p>	<p>1991 九州電力初のガスコンバインドサイクル発電所である新大分発電所1号系列(69万kW)運転開始</p> <p>1995 海外炭を燃料とする大容量の苓北発電所1号機(70万kW)運転開始</p>	<p>2016 高効率ガスコンバインドサイクル発電方式の新大分発電所3号系列第4軸が運転開始</p> <p>2019 超々臨界圧発電(USC)を採用した松浦発電所2号機(100万kW)運転開始</p>
<p><b>Focus2</b></p> <p>多様化する社会やお客さまニーズへの対応</p>	<p>1960 サービス改善等を目的に、福岡市天神ビル内にサービス・センター設置(以降、各支店に設置)</p>	<p>1978 光ファイバーケーブルによる電力用情報伝送を国内初で実用化</p> <p>1987 九州通信ネットワーク(QTnet)等、情報通信事業会社3社を設立</p>	<p>1996 大口お客さまへ自動検針を導入開始</p> <p>2000 電力の小売部分自由化開始</p> <p>2002 ガス供給事業を開始</p>	<p>2016 電力小売全面自由化</p> <p>2017 イノベーション推進に向けた、新たな事業やサービス創出の取組み「KYUDEN i-PROJECT」を始動</p> <p>2020 送配電部門分社化</p>
<p><b>Focus3</b></p> <p>低・脱炭素のトップランナーとして九州から日本の脱炭素をリード</p>	<p>1955 国内初のアーチ式ダムによる上椎葉発電所(9万kW)運転開始</p> <p>1967 国内初の事業用地熱発電である大岳発電所(1.1万kW)運転開始</p> <p>1968 玄海原子力発電所建設を佐賀県、玄海町へ申し入れ</p>	<p>1975 玄海原子力発電所1号機(55.9万kW)運転開始</p> <p>1977 のちに国内最大地熱となる八丁原発電所1号機(2.3万kW)運転開始</p> <p>1981 玄海原子力発電所2号機(55.9万kW)運転開始</p> <p>1984 川内原子力発電所1号機(89万kW)運転開始</p> <p>1985 川内原子力発電所2号機(89万kW)運転開始</p>	<p>1994 玄海原子力発電所3号機(118万kW)運転開始</p> <p>1997 玄海原子力発電所4号機(118万kW)運転開始</p> <p>2005 みやざきバイオマスリサイクル発電所(1.14万kW)運転開始</p> <p>2006 日本初の地熱バイナリー発電として八丁原バイナリー発電所(2,000kW)運転開始</p> <p>2008 長島ウインドヒルの長島風力発電所(5.04万kW)運転開始</p>	<p>2010 メガソーラー大牟田発電所(3,000kW)運転開始</p> <p>2014 グループ会社の再エネ事業を再編し、九電みらいエナジー(株)を設立</p> <p>2015 川内原子力発電所1・2号機が運転再開</p> <p>2017 インドネシア・サルラ地熱IPPプロジェクト初号機が営業運転開始</p> <p>2018 玄海原子力発電所3・4号機が運転再開</p> <p>2020 川内原子力発電所1・2号機の特定重大事故等対処施設を運用開始</p> <p>2020 大岳発電所の更新工事が完了し運転開始(1.37万kW)</p>